

公表 事業所における自己評価結果

事業所名	Doory佐津間			公表日	2025年 3月 28日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		広い空間を有効活用するために大きいテーブルを撤去し配置換えを行った。学習時には学校のような学習が出来るように机を配置している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	2	3	国の定めている人員配置基準に加え、加算要件を満たす人員配置となっている。	見学の方などの面談時に職員が1人取られてしまう。更に兄妹児などがプログラムに急遽参加になると安全に対応しきれないため、代わりにその時間だけでもフォローの人材が必要。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		・運動スペース、学習スペースがわかりやすく動きやすい空間になっている。 ・ホワイトボードを活用したスケジュールの確認や、気になるものに意識がいかないように目隠し、配置転換を行っている。 ・必要に応じて1人になれるよう環境整備を行っている。	新しく購入した柵や机を含めてコーナーガードを徹底していく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		毎日掃除の時間を設けている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		学習室を設けたり1人になれる空間づくりを行っている。	1人になれる空間が曖昧な為、気持ちの切り替えが難しい時もある。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	3	1	・毎日朝礼の場を設けて支援や児童についての情報・目標を振り返り・共有したり、必要に応じて都度職員同士で検討会を行っている。 ・非常勤の職員の参画が難しいため、議事録を作成していつでも確認が取れるように共有した。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		1年に一度保護者向け評価表による評価と公表を実施。その結果を経て施設内の環境整備や支援方法の検討を行っている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		毎日の朝礼や必要に応じて都度職員同士で検討会を行っている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4		事業所内だけで完結せず、相談員、市役所、他事業所の方にお越しいただき、意見や評価を元に業務の改善に努めている。	
10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	5		社内研修を開催したり、外部の研修に参加している。	研修の回数や内容の検討が必要。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		管理責任者だけではなくスタッフの意見を取り入れて作成・公表を行った。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5		日々の送迎時の送りやりや3~6ヶ月に一度保護者様との面談を実施し、ニーズや課題を把握して支援計画書を作成している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		現場スタッフの意見を吸い上げて反映、作成を行っている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		担当者会議の開催、支援計画書の内容の共有を行い、支援後に毎日支援目標に沿った日々の記録をとっている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		月に一度、チームでのプログラムの立案と、毎日の朝礼でのプログラム内容の検討を行っている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		毎日固定化されないように検討しつつ、人気のあったプログラムや必要だと感じたプログラムは繰り返し行っている。	

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5		学習タイムでは個別で課題に取り組む時間を設けるとともに、集団プログラムとして他児童と関わられるようチームで取り組む内容を行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		活動開始前30分程度スタッフミーティングを行い、お子様の様子やプログラムの流れ、役割分担や支援方法、配慮する点を確認している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		必要な共有事項に関しては記録を残したり職員間でその日あった出来事を話し合ったりする時間も設けている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		個別支援計画書にある具体的な目標（平均3～4つ）に対して、出来ていたか・出来なかった場合どのようなアプローチがあったかを詳細に記録している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		3～6ヶ月に一度の面談や担当者会議の上で見直しを行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3	2	担当相談員や市役所の方など、必要に応じて連絡を取り合い連携を行っている。	幼・保園によっては連携が上手くいっていない。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	1		保護者を介しての共有となることもあり難しい部分ではある。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5			
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	4			
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	1	4	月に一度、地域との交流を目的の一つとした特別プログラムの実施。	お子様のきょうだいの参加はあるが、今年度は開かれた関わりは少なかったためプログラム内容の検討が必要。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		日々の送迎の際にお子様の状況や課題について話をする機会を設けたり、必要に応じて個別に相談の時間を設けている。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5		弊社で取り組んでいる関わり方や対応の仕方等を面談や送迎時に共有させていただき、悩みや困りごとを一緒に考えていける取り組みを行っている。	イベントなどを開催して共有できる場を増やすことを検討。	
保護者へ	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		ご契約時での説明。また、随時ご不明な点への説明。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5		面談での話し合いを経てどの箇所がどのように変更になったのかを踏まえて説明させていただき、その上で同意を得ている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		日々の送迎の際にお子様の状況や課題について話をする機会を設けたり、必要に応じて個別に相談の時間を設けている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	1	月に一度、交流を目的の一つとした特別プログラムの実施	

の 説 明 等	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		相談や申入れがあった場合、LINE・電話・面談にて迅速かつ適切に対応できるよう努めている。また、苦情受付・解決担当者は重要事項説明書に記載し、ご契約時での説明を行っている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5		・月に一度LINEにて予定表の送付と祝日等休日プログラムの案内を流している。 ・YouTubeにて特別プログラムの様子を公開している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		鍵付き車庫を用いて書類の保管を行っている。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		障害特性に応じて対応方法を見極めている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	1	月に一度、地域との交流を目的の一つとした特別プログラムを実施し、内容によっては外部講師をお招きしている。	
非 常 時 等 の 対 応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	2	3	月に一度、発生を想定した訓練や動画・クイズを用いた知見深めるプログラムを実施。	訓練は行っているもののマニュアルの見直しが必要。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		月に一度、発生を想定した訓練や動画・クイズを用いた知見深めるプログラムを実施。	地震時にガラスのドアが割れそう。それに備えた訓練や想定がしたい。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5		契約時に確認を行い、必要に応じて与薬依頼書の提出をお願いしている。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	1	・服薬は医師からの指示書に基づき対応。 ・食べ物の提供を行う際は、保護者記入欄を設け把握に努めている。	お子様の健康上の配慮・注意点について、職員一人ひとりが意識できるよう定期的な確認と周知を、より強化して行っていく。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5			
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	1		LINE・文書等での周知を行っていく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		危険な事例があった場合、特定の報告書に記載しミーティングを通して全体で共有を行っている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		社内研修として虐待防止や身体拘束についての研修会を行っている。	随時新しく入職された職員への共有を行っていく。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	4	1		虐待防止・身体拘束適正化の研修を行うとともに、必要に応じて特定の保護者様への説明を行っているが、まだ保護者様への説明が不十分であるため連携を強化していく。	